

1. 最近の社会状況

①治安部隊とデモ隊衝突

1/26, プノンペン中心部で、デモをしようとした野党カンボジア救国党の支持者や縫製工場労働者ら 100 人と治安部隊が衝突した。地元人権活動家によると、少なくとも8人が負傷した。負傷者の中には、昨年7月の下院選で当選した救国党幹部も含まれているという。双方が投石するなどし、治安当局によると、警官数人も負傷した。カンボジアでは昨年未から賃上げを求める縫製工場労働者のデモが激化し、26 日はデモ隊側が拘束者の釈放や最低賃金の引き上げを訴え、以前救国党が反政府集会の拠点にしていた広場に入ろうとしたところ、治安部隊が阻止した。

②デモ隊排除で10人負傷

1/27, プノンペンで、独立系ラジオ「ビーハイブ」の経営者マム・ソナンド氏が主導する約 500 人のデモ隊が情報省前に押しかけ、道路を封鎖した。地元人権活動家によると、治安部隊が発煙弾を撃つなどして排除、少なくとも 10 人が負傷した。マム・ソナンド氏は鋭い政府批判で知られ、野党カンボジア救国党の支持者でもある。情報省が同ラジオによるテレビの新規放送免許の申請を認めなかったため、抗議デモを実施した。

③ゴミ収集労働者が賃上げ求めスト

カンボジアの首都プノンペン市のゴミ収集などを委託されているシントリ (Cintri) 社の全従業員 1,400 人のうち約 1,200 人が3日、月額賃金を 150 米ドル (約 1 万 5,200 円) まで引き上げるよう要求してストライキに入った。シントリ社はカナダ企業シンテック (Cintec) 社系企業で、プノンペン市内のゴミ収集や処分、街頭清掃を独占的に行うことで、2002 年に 50 年間の契約を結んでいた。従業員がストに入ったのは2日夜で、賃金引き上げのほか、健康手当、日曜・祝日の残業手当支給などを求めている。ソカ氏によれば、労使の話し合いは3日朝の時点で、膠着状態にある。シントリ社の経営側によれば、現在、街頭清掃者には基本給65 米ドル、ゴミ収集者には77 米ドル、修理工や運転手には110 米ドルが支払われているという。15 米ドルの賃金引き上げ案を労働者側に提示したが、拒否されたという。



※ストは、賃金を120ドルにアップすることで妥結し、終了。2/06からゴミ回収が再開され、プノンペン市内から徐々にゴミの山がなくなっていき、2/07の午後には、大通りからはほとんどなくなった。なお、シントリ社は、シエムリアップやシアヌークビルなどのゴミ回収事業も行っており、それらの市も同様にゴミの山と化したという。

④バタナックー2工業団地で労働者2000人がスト、国道3号線を一時封鎖

1/28, プノンペン郊外のバタナックー2工業団地内のドンドウテキスタイルの労働者2000人が、労働組合のリーダー2名の解雇に抗議して、ストライキを敢行。一時、工業団地前の国道3号線を封鎖して氣勢をあげた。3日後、会社側がさらに9名のストライキ首謀者の解雇を発表したので、ストライキは収拾がつかなくなった。会社側は9名の解雇については撤回したが、最初の2名については撤回していない。ストライキが長期化するにつれて、労働者側からも離脱者が現れ、2/07時点では工場は通常操業に戻った。2/08早朝、外部から労働組合オルグが80名ほど駆けつけ、労働者を煽ったが、給料日のため労働者が工場外に出なかったため、仕方なくオルグは散会したという。なお、バタナック工業団地では、現在、7~8社が操業中。



2. 最低賃金アップをめぐる闘争続行中

労務省が、縫製業労働者の最低賃金を 100 ドルまで賃上げするとの決定を発表したが、労働者たちが要求していた 160 ドルには全くといっていいほど足りておらず、労働者たちは引き続きストライキを行う予定であるという。ストライキに参加した労働者を代表するのは、6 つの労働組合から集まったリーダー達である。彼等は政府が原案の最低賃金 95 ドルよりさらに5ドルを乗せたことをうけて、まだ抗議活動によって賃上げが可能であると判断。100ドルはストライキを終わらせるには不十分な額であると主張した。Collective Union of Movement of Workers (CUMW)の代表である Pav Sina さんは、「最低賃金を 100ドルまで上げようという政府の決定は、労働者にとっては嬉しいことです。しかし求めているのはそれ以上です」と言う。労務省 Ith Sam Heng 氏の署名を添えた文書が昨日の夕方に配布され、そのなかには来月から賃

上げ後の額が実現されるとの内容があった。縫製業界の労働者達は現在、健康手当5ドルを含めた最低賃金80ドルで働いている。the Cambodian Confederation of Unions (CCU)の Rong Chhun 氏は、「最低賃金が100ドルになったとしても、労働者達の要求には全く達していません」と話している。また、C.CAWDU の副代表 Kong Athit 氏は、「今日のところは一時的にストライキは中断されるが、明日からまた労働者達は各自の職場に集結して抗議活動を行うだろう」と話した。Garment Manufacturers Association in Cambodia の事務局長である Ken Loo 氏は、「今回の労務省の発表は、労働者達には逆効果ともいえるメッセージであった。まず、あまりに突然のことでした。私達がこれまでやってきたことを馬鹿にするような結果です。私達との交渉をすべて無視しながら、これでいざらうと考えているのです。これでは問題は解決されるどころか、ますます状況を悪くしてしまうばかりです」と述べた。

また Cambodian Independent Teachers Association (CITA)の代表でもある Chhun 氏は、「縫製業労働者達に加えて、近く教員達もストライキに参加する予定である」と話す。年に一回行われている CITA の会合が昨日開催され、そこで1月6日より教員立ちも抗議活動を行うことが発表された。教員に関してはもともと最低賃金の定めがなく、また、団体で交渉を行うといった行動は認められていない。しかし今回彼らは、最低賃金として250ドル、そして交渉を行う権利を主張するようだ。抗議に参加予定の教員達のなかには CITA のメンバーではない人々もおり、参加することにすでに賛同しているという。総勢何人ほどが集まるのかはまだ明らかにはしない様子だ。

3. 1/03~09 プンペン市内:カナディア地区の騒動についての現地ニュース

①1/03 デモ隊と治安部隊衝突で死者

1/03朝、首都プンペン Por Sen Chey 地区にある Canada industrial complex において、少なくとも3人が警察官の発砲によって死亡したことが、プンペン警察署長 Chuon Narin 氏によって明らかになった。1/02の夜よりストライキが発生している Veng Sreng street において、何千人ものストライキ参加者を排除するために真夜中に数百人の警官隊が投入された。その際に乱闘となって発砲事件が起こったものとされる。ほんの1ヶ月前、



現場に遭遇したポスト紙の記者が、警官隊は自動拳銃を使用していると証言。組合リーダーと人権活動家は、実際にはさらに多くの死者がいると主張する。Cambodian Confederation of Unions の Rong Chhun 氏は、「4人の労働者が銃に撃たれ死亡し、多くの人が負傷している。状況はいまだ緊迫しています。ただ給料を上げて欲しいだけなのに、なぜ撃たれる必要があるのでしょうか」と話した。



地元の人権団体 Adhoc に所属する Chan Soveth 氏は実際に現場に居合わせており、4人が撃たれて死んだのとは別に他にも10人が重傷を負ったと証言している。「警官隊が頭突きをするのを見ました」と Soveth 氏。また、近くの家へ逃げ込もうとする労働者を警官隊が追いかけていく姿も見たといい。一方で National Military Police のスポークスマン Brigadier General Kheng Tito 氏は「死亡したのは1人だけであったと主張し、「私達は、ただ自分達の仕事を行っているだけです。安全が脅かされるようであれば、その原因を排除する

必要があります。もしストライキをこのままほっといていけば、後になってもっと複雑で取り返しのつかない事態になってしまうでしょう」と述べた。labour rights group Solidarity Center の Dave Welsh 氏は、警察官の銃の使用に関して怒りを露にし、「どんな状況であつたにしろ、あそこで銃を発砲するのは許されるべきことではありません。違法であり政府が認めてよいものではありません」と憤る。労務省に所属する Labour Advisory Committee が新たな最低賃金として95ドルの施行を発表したことをうけて、今回のストライキは発生していた。この金額は、本来労働者達が求めていたものに全然足りていない。しかし今週始めに労務省は、さらに5ドルの値上げを行うと発表している。

②1/06、カナディア工業団地がゴースタウン化

カナディア工業団地には40社近くのマスタード色の工場が、操業しており、いつもは敷地近くに暮らしている縫製業の労働者達が、徒歩やバイクで道路を行きかい、レストランで食事をしたりしている。カナディアの経済地域にあるという幸運が手伝い、周辺の商店や簡易宿舎などは1万3千人の労働者達が主に歳入の源となってきた。しかし、カナディア工業団地内にある工場に勤めていた労働者達が Veng Sreng ストリートにある広場を舞台に警官隊と衝突した日以降、様子は一変した。今回の激しいデ



モが始まったのは2週間前、政府が最低賃金160ドルを拒んだことから始まった。

このデモ活動の状況が悪化したのは、警官隊が抗議活動の参加者や人権団体のメンバーを、逮捕したためである。その夜、怒った労働者達と警官隊の間では暴力的な衝突が起こってしまった。そして翌朝、労働者が自作の武器や石を手に警官隊に反撃した事から事態はますます泥沼化した。午後を迎えた頃にはすでに4人の労働者が殺され、20人以上が負傷する事態となった。このなかにはただの通りすがりの人なども含まれていた。その後すぐに軍隊が到着し、何人かの手当を行なった。そして次の日曜日、まるで2日前の騒々しさが嘘だったかのように、カナディア工業団地は静まり返っていた。労働者の大半はこの暴力的な事態を恐れどこかへ逃げてしまい、勇気ある少数のグループは団地に居残ってなおも自分たちも賃上げに関しての要求を続けていた。工場の外では若い警備員達が待機しており、すべての店がシャッターを閉めている。食品を扱っている市場もいつもより売り子も少なく、取るに足らないようなものを店先に並べている。窓が粉々壊された工場の前にたたずみ、団地の様子にため息をつく23歳のSrey Noさんは、自分の賃金がきちんと支払われることを辛抱強く待っている。そして「まるで誰もいない街のようです」と話す。また、財布やハンドバッグを製造している工場に警備員として雇われている24歳のChhuoen Raさんは、団地の雰囲気の変わりように関してSrey Noさんとはまだ違った見方をしているようだ。「いつもだと、工場に勤める人達でこの通りはごった返しているのです。それは今となっては、ほとんど人がいやしません。まるで、戦争地域のようなようです。みんなどこかへ逃げているのです」と話す。

カナディアの経営主任であるMin Chandara氏は、「大量の労働者が姿を消し始めたのは、彼らが賃上げデモに参加し始めてからだ。金曜日の朝にヒートアップしたデモ活動は暴力の衝突へと発展したため、カナディアから人が逃げたのだ」という。それ以来、人は戻ってこない。Chandara氏によると、常置の店舗が600以上と、移動式店舗が350以上あったというが、ほとんどの店は板張りをされ締め切られているという。「ここでのビジネスは完全にストップしてしまいました」とChandara氏は話す。誰もいなくなった工業団地にいち早く戻ってきて商売を再開させたうちの一人である男性は、「もちろん心配する気持ちもありますが、商売を再開させないわけにもいかないのです」と話した。彼の横には、妻と3人の子供がいる。いつもなら、週末になるとモップやチェアやプレート、ボウルといった日用品の売上でほしい500ドルは売り上げていたというが、事態が一変してからはまだひとつの商品も売れてはいない。「どうぞれば良いのか分からず途方に暮れています。ただ事態が早く終息することを願っています」とだけ述べた。

Veng Sreng ストリートに散乱していた石などはすべて撤去されているが、以前の様子とはまったく違う様相になってしまったという。銃を携帯した軍人達は道の端に止められたトラックの荷台から人々を監視するように見渡している。また、団地近くにあるクリニックにも、数名の軍人達が配備されていた。このクリニックは金曜日の警官隊との衝突により負傷した人たちに対してちゃんと手当を行わなかったとして、労働者達の怒りを買って、院内にあったベッドなどが全て道路に放り出されてしまったようだ。数日後、割られた窓の破片を道路に散乱させたままこのクリニックは再開されたが、こちらも客足はないという。薬剤師のPich Sokunさんの話しによると、医薬品の売上はいつもは80ドルそこらで時には100ドルに達することもあるというが、今週の日曜日には売上たったの5ドルであったという。

③1/08、縫製工場が組合に対し訴訟か

The Garment Manufacturers Association in Cambodiaのメンバーが、賃上げデモによって受けた施設のダメージに関していくつかの労働組合を訴えており、組織もそれを後押ししていることが明らかになった。GMACの事務局長であるKen Loo氏は、150人以上のメンバーが今回の訴訟に参加しており「まだまだ参加するメンバーは増えています」と話す。12月下旬に始まり今やっと落ち着きを取り戻し始めた賃上げストライキのおかげで、工場が失った利益の額は2億ドルにも昇るものと組織は訴える。そして今回のストライキで中枢の役割を担っていた6つの労働組合に対して、ついに法的措置が求められることとなった。しかし組合メンバーの多くは組織からの電話に応答しない様子だ。

ストライキの期間中、何百もの工場が閉鎖を余儀なくされ、そして騒動は警官隊が4人の労働者を殺害するといった最悪の事態を迎えることとなった。4人はいずれも金曜日、プノンペンにあるカナディア工業団地の広場における衝突の混乱の中で殺害された。韓国企業が保有する工場でも、木曜日に何人かの労働者が逮捕されており、カナディア工業団地の経営者は昨日、団地内に2つ韓国企業があったことを話した。また、Korean Chamber of Commerce in Cambodiaの代表Nam Shik-Kang氏は、「GMACに賛同している工場もいくつかあります」と話す。しかし彼はほしいの企業がビジネスを続けており、デモによる被害は少なかったものと話す。「私の工場に関して言えばなんの問題もありません。法的措置を取る気はありません」と彼は話す。

④1/08、暴徒化による被害拡大

治安部隊とデモの参加者との間で勃発した先週の暴動をうけ、暴動が起こった地域のビジネス経営者達が、会社の損害費用を求めて20状もの訴状を提出した。Por Sen Chey地区のポリスチーフであるYim Sarann氏の話しによると、Veng Sreng Boulevardと、プノンペン経済特区周辺にある工場や会社、お店のオーナーなどがデモの参加者達に対し、被害を受けたそれぞれの建物の弁償を求め、損害賠償を訴えた。Sarann氏は、「私達は今、彼等の出した訴状を受

け、どれほどの被害を受けたのか調査をしているところです。その後、プノンペン裁判所へこの問題は送られます」と話している。先週ひっきりなしに行われた暴動のせいで、Por Sen Chey 地区にある少なくとも 30 もの会社が損害を受けたようだ。そのうち 20 社がすでに訴状を提出しているが、まだプノンペンを留守にして帰ってきていない残りの経営者達も、帰って来て損害を発見し次第訴状を出すのではないかと、Sarann 氏は推測する。

Yakjin (Cambodia) Inc で起こった木曜日のデモでは、数十人が怪我をし、10 人が逮捕されている。また、金曜日に Veng Sreng Boulevard で起こったデモに関しては、少なくとも 4 人が死亡し数十人が怪我をし、23 人が警察官によって逮捕される事態となった。逮捕された 23 人はいずれもプノンペン裁判所に送られた。訴えられているのはそれぞれ暴行と器物損害で、もしどちらの罪も認められた場合、各人が最大で 5 年の懲役、1000ドルから 2500ドルの罰金を支払わなければならないことになる。Veng Sreng 地区にあるプライベートクリニック、Ekreach の Dr Lim Mesa 氏は日曜日、警察に訴状を提出した。その 2 日前、彼のクリニックの窓はデモ活動の参加者達によって破壊され、クリニック内に保管していた医療機器などは道路へと投げ出されてしまっていた。「暴力的なデモによって、私のクリニックは台無しにされました」と Mesa 氏はポスト誌に語った。「彼等は私のスタッフ達に対して殺してやると脅しをかけ、クリニックの備品を次々と投げ出しました」とも話した。Mesa 氏は破壊されたスキャナーや X 線のマシンなどの代償として、23 万ドルを要求。「デモの参加者達を厳しく罰してくれるよう、裁判所に要求しています」と Mesa 氏は話した。

⑤1/09、暴動に韓国政府が関与との噂

先週、労働者達を鎮圧するために故意に軍隊を派遣させたとして、韓国大使館が周辺諸国などから非難の声にさらされることとなった。問題となったのは韓国大使館の FACEBOOK ページへの投稿だったが、非難を浴び始めたことによりこの書き込みはすでに削除されている。韓国大使館は、韓国企業の工場を守るために無理やりカンボジア政府に圧力を掛けて労働者達を弾圧したとされ、そのことによって様々な方面から糾弾されていた。そこで韓国大使館は昨日、糾弾されている全ての内容を否定し、こういった事態になったことは全くの遺憾で、間違った情報が生み出したものだと主張した。いくつかの国際メディアが先週報道していることだが、韓国が自らのビジネス投資を守るためにカンボジアの政府に対して、デモを軍隊で鎮圧するように要求していたことが判明。それに関して韓国大使館の代表が昨日発表した内容では、韓国の正式な団体がカンボジアの軍隊や警察官と確かに面会しているが、それは木曜、金曜日に労働者たちが軍隊によって弾圧された後の話し、ということだ。韓国大使館は問題となった投稿をすでに削除しているが、その一方で、韓国人と韓国企業の安全性が脅かされないようにと、カンボジア軍隊と行なった面会の際の話の内容を、事細かにアップデートし始めた。

韓国はカンボジアに最も多く投資を行なっている国の一つで、カンボジアの縫製業や生地織物の分野では一つのキーマンとなっている国だ。カンボジア国内には、韓国企業が経営している工場がおよそ 60 あるとされている。12 月 27 日、大使館の Kim Han-soo 氏と Deputy Foreign Affairs Minister の Ouch Borith 氏との間で行われたミーティングでは、韓国大使がカンボジア政府に対して、「韓国企業のもつアパレル工場の安全性を阻害しないよう、早くストライキを解決して欲しい」といった内容のことを伝えた。しかし、Korean Confederation of Trade Union が発表した文書によると、But Borith 氏は、「人権に関して厳しい西洋諸国からのプレッシャーがあるので、私達は慎重な手段しか取ることができません」といった返事をしたとのこと。また、同日に大使が催した宴会の場において Kim 氏は、カンボジアの政府高官に対してなるべく早々にストライキを解決するようにと政府にと再度要求したと言う。その返事としてカンボジア政府の Om Yentieng 氏は、「ポルポト時代に我々が血を流し学んだ教訓によると、我々はここで強引な政策を取ることはできません」と対応。

韓国大使館はまた、フンセン首相やサムランシー氏、他にも政府のなかでキーパーソンと思われる人物などに対して、同じように早急なストライキの解決を数度に渡って依頼する内容の手紙を書いている。「我々はこうやってカンボジア政府に呼びかけることによって、彼等がもっと真剣にこの事態に関して考えてくれるのではないかと、信じていただけです」と韓国大使館は主張する。しかし韓国企業の社長などが軍隊と面会する際に、韓国政府の職員も同行していたとされ、それをうけた軍隊がカナディア工業団地で起こったストライキにおいて、地域内に工場を構える韓国企業を守るために戦わされたのではないかとされている。昨日の韓国大使館の発表によると、韓国政府と軍隊がミーティングを行なったのはつい昨日であり、治安部隊が労働者に向かって発砲したのは金曜日であるから韓国政府が関与していることはない、と強調。また韓国大使館は、ただデモ活動を早く終わらせてほしいとただリクエストしただけで、具体的な方法に関してはなんの指示も出してないと発表。「大使館は国の政府に対して行動を強いる権威など持っていませんし、ましては軍隊を動かすように、などと圧力をかけたりできるわけがありません」と付け加えた。

韓国大使館の Lee 氏は、デモ参加者達を殺そうとしたのでは、といった疑いの声を一切否定している。「カンボジア政府の起こしたアクションに関して、私達はなんのコメントもするつもりはありません。私達はカンボジアに暮らす韓国人、韓国企業のことにはしか関心はありません」と話し、その投稿が無駄な事態を招いてしまったために、投稿を削除したのだと話した。そんな最中、カンボジア人民党の法律家である Cheam Yeap 氏は、「正月に行われた大宴会のなかで彼もま

た、早くストライキをやめさせるように韓国大使館から言われた」と発表している。

⑥2/07時点では表面上平穏

2/07、私は再度、カナディア工業団地を訪ねてみた。騒動後、約1か月。工業団地内の工場はほとんどが操業を再開しており、労働者が大勢出入りしており、表面上はかつての盛況状態に戻っているようであった。しかしながら、工業団地内の奥まったところには、こっそりと治安部隊のトラックがおいてあった。この工業団地内には、まだかなりの人数の治安部隊が配置されており、なにかことが起きた場合には、ただちに出動できる態勢になっているようである。工業団地内のガードマンが、「10人以上の集会は禁止されている」と話してくれた。



4. 1/09、SL 工場の容疑者が釈放

昨年11月にSL社でのストライキに加担し、暴力沙汰を起こした容疑で捕まっていた15歳の容疑者は、裁判所の監督のもとに保釈された。弁護士は「その少年は精神的な問題を抱えています。しかもまだ少年です。我々は彼をどう対処するのか専門家と協議するのを待っています」と話す。11月12日に起こったプノンペンの Stung Meanchey での暴動で、39名が逮捕されたがその中で、SL社で働いていたのはたった1人だった。またこの騒動では屋台を営んでいた Eng Sokhnom さんが巻き込まれ銃撃を受け、亡くなっている。

5. コンポン・トムの遺跡が次期世界遺産候補へ



カンボジアでは1992年にアンコールワットが、2008年にプレアヴィヒアが世界遺産に登録された。そして、コンポン・トムのサンボープレイクック寺院郡がユネスコの次期世界遺産候補にノミネートされた。サンボープレイクック寺院郡はアンコールワットで有名なアンコール王朝よりも200年先の7世紀に建立された古代都市である。政府のスポークスマンである Ek Tha 氏は、「今年の暮れか、来年早々では」と述べ、「私は1999年の12月に初めてそこを訪れました。ジャングルに覆い隠された寺院郡は素晴らしい、の一言に尽きます。保存、存続させるべき文化がそこにはあり、我々はその為に動いています」と続けた。Tha 氏によると政府は次期世界遺産候補にリストアップされた事で、修復、保全、観光業の促進の為に“義援金集め”に、それが一役買うのではとの望みもあるようだ。

以上